

ひだまり

秋田大学教育文化学部 後援会情報誌

令和2年3月1日 第11号

愛称「ひだまり」は、教育文化学部が「秋田の文化の温かさ」の集まる日溜まりのような場所となり、皆様にその暖かさが届きますようにという願いを込めて名付けられました。

2020Vol.

11

も
く
じ

地域文化学科での学び	1
後援会活動報告（後援会長）、就職・進学が決まった学生からメッセージ	2・3
教育文化学部就職活動支援（キャリア委員長）、就職内定状況	4
就職情報室を利用して	5
学生の大学生活とフィールドワーク科目について（教務学生委員長）／ 学部長あいさつ／大学学部関係行事予定	6

地域文化学科での学び

地域文化学科は2014年、教育文化学部の改組により新しく開設された学科です。以後、学科内の再編を経て、現在の3コース体制（地域社会・国際文化・心理実践コース）が確立されました。ここ数年来、大学には自らの“存在意義”を問われることが多くなりました。この改組・改編もそうした流れと無関係ではありませんが、秋田という地に立つ本学にとって、地域協働の核となる地域文化学科の誕生は必然であったということがいえます。

さて、本学科の特質を一言で言い表すのは難しいことですが、その中でも特記すべきは、学科科目群の大動脈を一本の線で走る「コアカリキュラム」の存在です。このカリキュラムでは、学科の理念でもある「地域を支える現場実践人」の養成を目的に、地域課題の発見（1年次）、方法論の獲得（2年次）、課題解決のプロセス修得（3年次）の3要素を体系的に、段階を踏んで学んでいきます。また、そのいずれにおいてもフィールドワーク型授業を展開し、地域の方々とのコミュニケーションや協働といった体験を軸に、地域の実情に即した実践人のあり方を

自得できるようにしています。

以上のうち、1年次に想定する“地域課題の発見”は、実際に地域の現場に足を踏み入れ、その現状や課題を自らの眼と耳を通して体感するという点で、そしてまた今後の学びの足がかりを得るという点で、特に重要です。コアカリキュラムの1つ「地域学基礎」では、今年度、各教員が専門領域を看板に14の講座を開講。それぞれ10名前後のグループ単位で活動を行いました。最終報告会のタイトル——「あきたの食素材を活用した地域おこし」、「インスタグラムを活用した地域ブランド化の取り組み」、「秋田県沿岸部の地域防災を考える」……。これらを列記するだけでも、当該カリキュラムの充実ぶりとその意義を察していただけるのではないかと思います。

しかしこうした活動は他でもなく、地域の方々の支えとお導きがあってはじめてなしえるものでもあります。さまざまなお力添えに感謝の意が尽くせませんが、学科の取り組みにご理解いただき、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

地域文化学科主任 大橋 純一



秋田で学んだ 自信と誇りを胸に

教育文化学部後援会 会長 相馬 仁

春、別れと出会い、まとめとスタートの季節となりました。今年度も教育文化学部後援会として、就職情報室の運用、教員採用・公務員・企業就職試験等の支援など、滞りなく行うことができました。後援会会員、大学関係者の皆様、日頃から後援会活動にご理解、ご支援を賜り誠にありがとうございます。

昨年はラグビーワールドカップ日本代表の One Team に湧き、来年は東京オリンピック・パラリンピックで日本中が熱狂に包まれることでしょう。私たちは夢に向かう姿から、多くのことを学び感動や勇気をもらいます。

夢の実現に向け、学生の皆さんに大切にしてほしいことがあります。

1 人間力を高める

どんなに優れた立場や地位であれ、知識・技能が優れていても、人は人に学び、人に心を惹かれ、人と共に歩むものです。自立した社会の一員として、自己を磨いてください。



令和元年度の理事会・総代会の様子

2 言葉と感性を磨く

言葉には、人を勇気付け、一瞬で人を変える力があります。多くの人と関わり、美しい言葉を磨いてください。

美しい瞳であるために、自然と共に生き、多くの本物や美しさに触れ、多くの人々のよさを見つけてください。

3 失敗を恐れず挑戦する

失敗は自分の肥料、財産になります。やり直す機会はいくらでもあります。挑戦し失敗しても、また起き上がった前に進めばいいのです。

学生中心の大学、地域と共に輝く大学、世界と繋がる大学、ここ秋田大学で学び、そして、秋田の豊かな自然、文化、人情に触れ、ここ秋田で育った自信と誇りを胸に、志高く、たくましく社会で活躍することを期待しております。

就職・進学が決まった学生からメッセージ

令和元年11月30日（土）に開催した中央地区会にて、4年生就職活動・大学院合格体験発表を行いました。参加された方からの反響も良く、今回改めて本誌に掲載します。保護者の方のみならず、学生にとっても参考になる内容です。

教員採用試験を振り返って

教育文化学部 学校教育課程
教育実践コース 齋藤 実奈



私は秋田県の教員採用試験を受験し、合格をいただきました。併願はしていないため、4月から秋田県の小学校教員として働きます。教員を目指し始めたのは中学生の頃で、学校生活での人との関わりや教員である両親の姿を見てきたことがきっかけです。その後、秋田大学での授業や実習を通して仕事の大変さを実感しましたが、それ以上にやりがいの方が心に残り、受験を決意しました。

大学生活では将来教員として働くことを意識していました。体力やコミュニケーション能力を培うために、バスケットボール部に入学して週5日の活動に打ち込みました。また、アルバイトとして、飲食店で接客をしたりスポーツジムでインストラクターとして働いたりしました。様々な社会の中で様々な人と関わった経験は、自分の成長に欠かせないものだったと感じます。

1次試験の対策について、大学2年生までは教員採用試験のための勉強は特にせず、大学での授業を自分なりに考えながら受けていました。教員採用試験の対策を始めたのは3年生の夏休みです。過去問の分析をした後、比重の大きい分野から勉強しました。演習問題を中心に行い、間違えた問題に赤丸、正解したが自信がなかった問題に青丸をつけ、実態に合わせながら勉強を進めました。そ

の後、10月頃から始まった大学での対策に参加し、学生同士で討論をしたり、模擬試験を受けたり、先輩から情報をももらったりしました。

2次試験の対策では、特に模擬授業に力を入れました。教育を専攻している訳ではない人も含め、多くの学生や先生方に模擬授業を見てもらいました。対策の甲斐があり、本番は自信を持って臨むことができました。

教員採用試験を振り返ると、友人や家族など多くの人に支えてもらったと改めて感じます。また、就職情報室の方や大学の先生方が充実した対策の環境を作ってくださったことに感謝しています。多くの人々の支えがあって今の私があることを忘れず、今度は私が子どもたちの成長のために良い環境を作れるよう努力していきたいです。

成長の実感

教育文化学部 地域文化学科
地域社会コース 池田 圭佑



公務員試験を受けている最中、大学生活で得たものについて考えることや自分自身を見つめ直す機会が多かったように思います。また、内々定をいただくまでの道のりで、自分自身、成長できたのではないかと感じております。

公務員試験対策を始めたのは昨年度の6月からでした

が、本腰を入れたのは10月頃でした。勉強方法についてはサークルの先輩に相談したり、一緒に勉強している仲間のやり方をまねしたりして、試行錯誤しながら自分にあったものを探しました。

年末までは特に重要な科目だけに集中し、出題数の少ない科目については試験直前まで手をつけませんでした。年明けからは模試が始まりました。模試の結果が出る度に友達と点数を競ったりして勉強へのモチベーションを上げていました。

1次試験対策の期間は6月から数えると1年弱ありました。1日のほとんどの時間を勉強にあてていたときもあり、長く苦しい期間でした。いま振り返ってみて、一番大切だったと思うのは適度な息抜きです。勉強は学校、家は癒やしの空間とすることでメリハリをつけて試験勉強に取り組めたと思います。

2次試験対策では面接練習と面接カード作成をしました。面接官と会話する、というイメージで緊張しすぎないように心がけました。慣れが肝心だったなと思います。

苦労したのは自己分析です。自分自身について深く考えることは、日常生活であまり意識しないことなので最初は戸惑いました。しかし、これまで頑張ったことや自分の長所短所について振り返ることができ、貴重な体験だったなと思います。大学の授業やサークルやバイト、ボランティアなど、大学に入ってからの経験全てが、面接対策の時に自分の背中を押してくれました。

2次試験対策や本番の面接を経て公務員試験に臨む前よりも社会的になれたと思っています。卒業研究の現地調査等でそれを実感しました。これは、試験期間中に初対面の人と話したり、多くの人に支えられたりしていた証拠でもあると思います。自分を成長させてくれた出会いへの感謝を忘れず、入庁後も上昇志向で働いていきたいと思っています。

就職活動を振り返って

教育文化学部 地域文化学科

人間文化コース 中津川一真



私はこの度、北都銀行に内定を頂きました。就職活動を本格的に始めたのは3年生の夏ごろからで、そこでいくつかの会社のインターンシップに参加しました。

漠然と秋田でなにか人のためになる仕事がしたいという考えはありましたが、最初は全く金融業界のことなど考えていませんでした。そんな中、北都銀行のインターンシップに参加し金融業や銀行の仕事など今迄知らなかったことを多く知り、特に仕事が地域のため、企業のため、はたまた人のためにもなる融資の業務に魅力を感じ、金融業界を志しました。

銀行といっても中にはたくさんの種類のものがあり、それぞれ微妙に事業、業務や顧客層などに違いがあります。その中でも地域により密着した業務を行うことが出来るという事、そしてより人を大切に作る社風が強い北都銀行を第一志望として就職活動を行ってきました。

就職活動は誰かにやらされるものではなく、自分でなにかからなにかまで行動しなくてはなりません。説明会、インターンシップの参加やOB訪問を行うことで、大きく主体性を成長させることが出来たのではないかと今

では感じています。

私が特に力を入れたことは自己分析やESの練習です。12月から就活解禁時まで集中的に行ってきました。3月からはエントリー期間が開始し説明会や、ESの提出、適性検査などほとんど毎日予定があるくらい忙しかったですが、早め早めに手を付けることで落ち着いて試験に臨むことが出来ました。全部で10社ほどエントリー致しましたが、北都銀行の最終面接が他の企業の面接予定日よりも早かったこともあり、4月に内々定を頂き就職活動を終えました。

就職活動では就職情報室の職員さん方や大学の先生方が快く相談や、添削、面接練習を手伝ってくださったからこそ納得のいくものに出ることが出来ました。また、共に頑張ってきた友人の存在も大きかったです。皆さんには感謝してもしきれません、ありがとうございました。

春からは社会人として生きていくことに不安や期待がありますが、大学生活で学べた多くのことを忘れずに、大切に過ごしていきたいと考えています。

大学院進学について

教育文化学部 学校教育課程

教育実践コース 清水 里沙



4月からは秋田大学大学院のカリキュラム・授業開発コースに進学します。大学院で2年間学び、その後は秋田県の中学校教員になりたいと考えています。

大学院進学の大きな要因はもっと学びたいと思ったことです。教育実習や教育実地研究を通して、毎回多くの学びや経験を得ることができました。とくに教育実地研究では授業以外の教師や学校の役割を知り、地域と支え合いながら子どもを育てていることを実感することができました。そのような活動から自分の課題に気づき、経験や知識が不十分であることも感じました。また、私は秋田県の中学校国語科教員を目指していて、今年度の教員採用試験も受験しました。結果は不合格で、そこでも自分の勉強不足を感じ、大学院で教育や専門性について幅広く学びたいと強く考えるようになりました。

進学に向けて取り組んだことは、大学院の情報集めです。説明会に参加したり、院生の先輩に話を聞いたりして、疑問に思っていることを解消することができました。また、大学院の講義に何度か参加する機会があり、雰囲気を知ることができたので、進学への自分のモチベーションを上げることにも役立ちました。本格的に対策を始めたのは試験の大体1ヶ月前です。大学院の試験は小論文と面接があり、どちらも教員採用試験の勉強で取り組んでいたことだったので、見通しを持つことができました。ゼミの指導担当の教授に小論文の添削をお願いし、時折面接の受け答えも確認していただきました。家族、友人、先生といった多くの人に支えてもらいながら努力したことで、大学院に合格することができたと思っています。

大学院進学は1年生からの目標でもあったので実現できたことを嬉しく思っています。しかし、4月から教員として働く友人たちと自分を比べて、焦りや周りとの劣等感をもつことが多く、落ち込むときもありました。今はそういった気持ちを教員採用試験に対する励みに変え、目標に向かって努力し続けたいと考えています。

教育文化学部の就職支援と学生の就職状況について

キャリア委員会委員長 篠原 秀一

秋田大学教育文化学部は、学部就職情報室と本部学生支援・就職課とも連携し、教員が構成するキャリア委員会により学生の就職を支援しています。このキャリア委員会は、実働的には教職・公務員・企業の3部門に分かれ、基本的には在学生全員を対象とし、重点的には3年生後期からの就職活動学生を支援します。特に、学部就職情報室の役割は大きく、常勤職員2名が随時訪ねて来る学生の就職相談に対応しています。この就職情報室こそ、学部就職支援の要となる拠点で、皆様から寄せられた後援会費からの補助で運営が可能となっております。重ねて御礼申し上げます。

現在、全部門共通で6月に「キャリアガイダンス」を、各部門が秋から冬にかけて「先輩と語る会」を開催しています。「キャリアガイダンス」は進路の決まらない在学生も対象に、「働く」意味、さまざまな職場の紹介、就職活動の概要が丁寧に説明されます。「先輩と語る会」は、就職活動を終えた先輩たちが、これから就職を目指す後輩たちに、経験談や助言を提供する場です。「キャリアガイダンス」も「先輩と語る会」も参加できる在学生は、3年次に限りませんので、早めに就職に関心を持った学生は、話を聞きに行けば必ず得るものがあります。

教職部門では、学校教育課程の教員を目指す学生を主対象とし、正課での学習を補助するかたちで、「スタージュ」「教職自主ゼミ」が随時開催され、3年生秋対象「オータムキャンプ」と4年生春対象「スプリングキャンプ」が1泊2日の合宿形式で実施されます。「オータムキャンプ」では、合格した4年生の助言を活かしながら、3年生が教員採用試験の準備を基本から本格化させる契機が得られます。「スプリングキャンプ」では、現場経験の豊富な実務家教員の皆さんの見識と助言を活用し、3か月ほどに迫った教員採用試験対策を個々に練られるように合宿します。秋田県教育委員会に対しては、キャリア委員会が一定水準以上の4年生数名を「大学推薦」学生として推薦することもあります。それらの学生

たちは2次試験に合格するとは限りませんが、1次試験が免除されます。このような「大学推薦枠」は秋田県以外にもあります。

公務員部門では、地方自治体や各省庁の就職説明会・インターンシップについて、在学生に随時頻繁に詳細な情報を提供するほか、公務員部門教員が面接試験対策を希望者に個別で対応しています。公務員を目指す学生には、就職説明会やインターンシップへの参加を奨めます。公務員の仕事は従来以上に幅広くなっており、必要とされる能力も企業で働く人たちに近くもなっています。公務員試験自体も従来型「公務員」としての知識を問うのではない、まるで企業のような採用試験も少しずつ増えています。

企業部門では、秋に主として3年生を対象とする「就活スタート講座」を複数回開くほか、3月初めには全学共通で学外行事ですが「秋田大学ジョブ・フェア」を後援します。また、全学対象ながら理工系に限らない職場での「ジョブシャドウイング」の企画が冬にあります。普段は、各学生の就職活動に合わせ、エントリーシートの相談・添削、面接試験対策を個別に企業部門教員が中心になって対応しています。企業への就職活動についても、機会があれば、随時募集されるインターンシップや就職体験の場、企業説明会の場を少しでも活かし、その働く場・企業に関する直接的情報を集めるべきです。看板の立派さや大きさだけに惑わされてはいけません。「小粒でもピリリ」企業はあちらこちらに隠れています。企業就職の活動は、今後も従来以上にスケジュール前倒しが求められます。

幸いなことに、令和元年度卒業生の就職率は昨年度以上（特に教職）です。しかし、残念なことに、現3年生の就職説明会等への出席者数が例年よりも少ないのです。自信を持つのも重要ではありますが、在学生には適宜、質の高い最新情報を集めていただければと思います。そのための教育文化学部なりの環境整備・支援を今後も続けて参ります。

2月末データ

就職内定状況

学部・課程等名	卒業 予定者数	進学 予定者数	求職者数			就職内定者数			就職内定率			その他	
			合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女		
教育文化学部	学校教育課程	125	10	114	33	81	99	25	74	86.8	75.8	91.4	1
	地域文化学科	105	4	96	40	56	91	38	53	94.8	95.0	94.6	5
	小計	230	14	210	73	137	190	63	127	90.5	86.3	92.7	6
教育学研究科	31	0	31	21	10	27	19	8	87.1	90.5	80.0	0	
合計	261	14	241	94	147	217	82	135	90.0	87.2	91.8	6	

就職情報室を利用して

教育文化学部 学校教育課程

教育実践コース 3年次 神馬 卓也

就職情報室を初めて利用したのは、一年生の9月頃です。講義で「今日は秋田県教員採用試験の合格発表日です。皆さんも3年後には結果をドキドキしながら待っていることでしょう。」と先生方が仰っていました。将来を何も考えずに、遊んでばかりいた私は、不安が募っていきました。それと同時に教員採用試験について、何も知らないことに気が付き、就職情報室を尋ねてみました。職員の方は、親身に教員採用試験について教えてくださり、先輩方がどのような大学生活を送り、どんな経験を通して教師になっていったのかを話してくださいました。自分の理想の教師像へ、どのように努力していくのが良いのかも一緒に考えてくださり、私の不安は消えていきました。

私の不安は今、何をすべきか分からないことが原因でした。私と同じような不安を抱えている人もいないのではないのでしょうか。私は今でも勉強が行き詰まると、就職情報室に行き会話することで不安を解消しています。思いきって就職情報室の扉を開いてみてください。その一步が教師になるための第一歩になる、かもしれません。

学校教育課程 地域文化学科

地域社会コース 3年次 中村 仁美

はじめに就職情報室を訪れたのは、3年生の6月頃です。その時に、私が興味を持っている業界について少しだけ話したことを覚えていてくださり、後からその業界の説明会があることをメールで知らせてくださいました。現在、おおまかな就活の方向性が決まってきたのは、就職情報室から案内のあった説明会に参加したところが大きいと感じています。

就職情報室では、過去に就活を終えた先輩方の報告書を閲覧することができ、「先輩と語る会」に参加すると就活の体験談など、就活にまつわる様々な

話を先輩から聞くことができます。また、就職情報室の職員の方々は様々な情報を提供して下さったり、親身になって就活の相談にのってくださる優しい方々ばかりです。

同窓の輪を広げよう

旭水会会長 千葉 昭



秋田大学教育文化学部同窓会「旭水会」は、秋田県内10の支部と東京・千葉・静岡の3県にも支部があります。会員数は、約7千人です。

現職教職員とそのOB、公務員、金融・保険、情報通信、サービス業など一般企業で幅広く活躍している会員で構成されています。

各支部では、総会や研修会が開催され、地域に密着した講演会や研究助成、親睦を兼ねたレクリエーション等も行われています。

大学在学中の学生には、旭水会準会員として同窓会誌「旭水」の配布や体育大会、文化・サークル活動への助成・協賛も行っています。

「旭水会」は、秋田大学全学同窓会の一翼を担い関東圏在住の会員を対象に東京都内で、医学部（本道・本道さくらの会）、国際資源学部・理工学部（北光会）と合同で、全学同窓会の設立10周年を記念し、令和2年2月1日に全学同窓会を開催しました。

来賓として、秋田大学 山本文雄学長はじめ多数の大学の先生方が出席くださいました。

記念講演は、秋田市出身の銭谷眞美東京国立博物館長から「秋田大学及び全学同窓会に期待すること」と題した感銘深いお話でした。

また、祝賀会では、旭水会員の元東京フィルハーモニー交響楽団で長年活躍されていたチェロ奏者の嵯峨正雄氏とバイオリン奏者ご夫妻による素晴らしい祝賀演奏で大いに盛り上がりました。

学部が違って、秋田大学の20代から80代までの同窓会員が一堂に会し、学生時代の思い出や近況報告など時間の経つのも忘れ、笑顔あふれる交流・親睦が図られました。

「旭水会」は、新入生から在学学生、そして卒業された同窓の仲間の皆さんの応援団です。笑顔で同窓の輪を広げていきたいと願っています。

学生の大学生活と フィールドワーク科目について

教務学生委員長 石井 照久

冬休みなどの長期休みになると、学内が少しさびしくなります。理由はもちろん学生数が減るからです。長期休みといっても、学生自体は研究活動や授業のレポート課題に取り組んだり、部活・サークル等々に励んだり、多忙に活動を繰り広げています。

長期休み中は、学内を出て行う授業（いわゆるフィールドワークを伴う活動）が活発になる時期でもあります。フィールドワークは長期休み中だけでなく、通常の学期中の平日（の放課後）でも行われますし、土日を使って実施されることもあります。

教育文化学部では、1年生に入学すると、教育実地研究Ⅰや地域学基礎といったフィールドワーク科目が準備されており、1年生からフィールド（学外）に出て、子どもと出会ったり、初対面の人々にインタビューしたり、いろいろな事を自主的に体験したりして学びます。自主的な学びを大切にしているのは、大学でも同じです。

フィールドワークを伴う授業科目は、1年次から4年次まで数多く準備されています。学校教育課程では、2年次から本格的に教育実習科目が始まります。地域文化学科では、基礎ゼミ・地域課題研究ゼミなどが用意されており、2年次から4年次で受講できます。座学で学ぶことに加え、フィールドに出て、問題を発見し解決方法を考えること、仲間と協力すること、でとても力がつきます。

フィールドワーク科目では、安全が第一なので、安全面にはとても気を配って行っています。そのため、本人がけがをした場合の保険、実習先などで相手をけがさせてしまった場合の保険、の2種類の保険加入はとても大切です。そのため、この2つの保険の加入状況を確認してから、フィールドワーク活動をしてもらっています。

私の専門は生物学・生物学教育でして、学生とフィールドに出て生き物を観察したり、採集したりすることが多いです。フィールドに出ると学生たちは、教室にいるときよりもさらに元気になります。それは、自然から目に見えない力をもたらしているからかもしれません。

多くのことを自主的・協働的に学べるフィールドワークと、基礎や理論をしっかりと身につけることのできる座学、これらを通して、学生はとても成長します。フィールドワークには、時間的な負担や経済的な負担がかかることもありますが、お子さんたちの学びを充実したものにするために、保護者の皆様には、一層のご理解・ご協力をお願い致します。



学部長あいさつ

秋田大学創立70周年

教育文化学部長 佐藤 修司

秋田大学は今年度創立70周年を迎えました。1949年に多くの地方国立大学と同様に新制大学として発足したわけですが、1910年創設時から官立で、高等教育レベルであった秋田鉱山専門学校と、1873年の創設以来長らく県立で中等教育レベルにあり、戦中の大変な時期である1943年によりやく官立に移管され高等教育レベルとなった秋田師範学校との間には大きな格差が存在していました。二つの単科大学にすべきだという意見が県内には強かったわけですが、最終的に秋田大学は鉱山学部と学芸学部からなる総合大学として発足します。全国に雨後のタケノコのようにできた地方の国立大学に対しては「駅弁大学」と揶揄されることもありましたが、現在、医学部、国際資源学部、理工学部と並び、教育文化学部は秋田大学の発展を支える重要な柱となっています。学校教育課程と地域文化学科から構成される点は、教員養成課程だけとなった、全国の総合大学の中の教育学部とは異なる、本学部の特色、強みとなっています。この強みを活かすためにも、課程と学科の連携を強め、地域を総合的にサポートする、グローバルな人材養成が求められます。

大学・学部関係行事予定（令和2年3月～）

3月 24日	秋田大学卒業式	※令和2年3月1日時点の予定
4月 1日	前期開始	
4月 2日	春季休業終了	
4月 3日	在学生ガイダンス	
4月 6日	入学式	
4月 7日	新入生ガイダンス	
4月 8日	前期・第1クォーター授業開始	
6月 1日	創立記念日	
6月 11日	第2クォーター授業開始	
8月 9日	夏季休業開始(9月27日(日)まで)	
9月 28日	後期・第3クォーター授業開始	
9月 30日	前期終了	
10月 1日	後期開始	
11月 30日	第4クォーター授業開始	
12月 26日	冬季休業開始(1月6日(水)まで)	
2月 13日	春季休業開始(4月1日(木)まで)	
3月 22日	卒業式	
3月 31日	後期終了	

秋田大学教育文化学部 後援会情報誌



令和2年3月1日発行
秋田大学教育文化学部
地域連携委員会
〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号
平成22年3月1日創刊

<http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman>